※本レジメン集は外来化学療法加算の算定を行っているレジメンのみを掲載。※当加算を取れない治療法や削除となったレジメン等のため、登録記号・番号に欠番がある場合あり。

	A'良担かんI								
	:疾患	食道がん	レジメン名						
		薬期間含む)	28~56日						
総コ	ース数	2コース(2コース目は4							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	オランザピン	5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)			
2		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5			
3	生食1000 ml		1 P	点滴静注	4時間	day 1			
	アプレピタン	1125 mg (day 1) 、							
4		80 mg (day 2~3)	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) , day 2~3 (80 mg)			
	※ホスネツビ	『タント未使用の場合							
	生食100 mL		1 P			day 1~5			
	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V			day 1~3			
5	デキサメタゾ		2 A	点滴静注	30分				
)	パロノセトロン		1 V	尽何肝任	3071	day 1			
	ホスネツピタ		1 V			day 1			
	※アプレピタ	'ント未使用の場合	1 V						
6	フルオロウラ	シル(5-FU)	$800 \text{ mg/m}^2$	- 点滴静注	24時間	Jan. 1 - 5			
0	生食500 mL		1 P		24时间	day 1~5			
7	シスプラチン	(CDDP)	$80 \text{ mg/m}^2$	点滴静注	ont HH	1 1			
/	生食500 mL		1 P		2時間	day 1			
8		ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1			
9	フロセミド20r		1 A	静注		day 1			
10	生食1000 ml	L	1 P	占海热沙	6時間	Jan. 1. 5			
10	生食500 mL		1 P	点滴静注	Oh4l自l	day 1~5			
	1.管外漏出		5 FII:	炎症性 CI	DD· 炎症性	-			
]	リスク分類		<i>J</i> -1 0.	火血!! CI	701.炎症日	-			
催吐	上性リスク分類		レジメン全体:	高度(5-FU:	軽度 CDD	P:高度)			
インニ	ラインフィルター								
	の要不要			不要					
		※オランザピンけ 1日	最大10 mgまで増	量可能 day	1.1け抗がん	剤投与前の投与であるが、day 2以			
						れている。また、糖尿病患者には禁			
						二対する投与の安全性は確立され			
		ていないため、血糖上							
	備考欄					はアプレピタント125 mg/day(day			
		•		•	•	る、午前中)のいずれかを投与す			
		る。	1时间~1时间30万	月リノ、OU INg/	uay (uay 2~3	、一門 サノワノバ・タ 4 ロル・佐 女子 タ			
			222 +77 >	. マ.I.E. 人 ) コ. <del>まけ</del>	生化~十八	<b>丰</b>   L   2 + <b>左</b>			
1		※CDDP総投与量200	~300 mg/m~を超え	る場合は蓄	付性の神経 かんしゅう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	毒性汪恵。			

	疾患	食道がん	レジメン名	5-FU+CDD	P療法(FP編	<b>家</b> 法)		
		:薬期間含む)		28日				
		6コース ※A5 FP+RT		は2コースまて	※制限な	こしのレジメンオーダーもあり		
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	オランザピン	5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)		
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5		
3	生食1000 ml	Ĺ	1 P	点滴静注	4時間	day 1		
	アプレピタン	125 mg (day 1) 、						
4		80 mg(day 2~3) タント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) , day 2~3 (80 mg)		
	メルクイノし 生食100 mL	グンド本使用の場合	1 P					
	主良100 IIIL デキサメタゾ	`/6.6 mg	1 V	1		day 1~5		
	デキサメタゾ		2 A	<u>.</u>				
	パロノセトロン		1 V	点滴静注	30分			
	ホスネツピタ			1		day 1		
		ント未使用の場合	1 V					
6	フルオロウラ	シル(5-FU)	$800 \text{ mg/m}^2$	点滴静注	24時間	day 1~5		
6	生食500 mL		1 P	点個評任	244寸[1]	day 1~3		
7	シスプラチン	(CDDP)	$80 \text{ mg/m}^2$	上次数分	2時間	1 1		
/	生食500 mL		1 P	- 点滴静注	2時間	day 1		
8	20%マンニト	ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1		
	フロセミド20r	C	1 A	静注		day 1		
10	生食1000 ml	L	1 P	点滴静注	6時間	day 1~5		
	生食500 mL		1 P		0. 1141	day 1 5		
	□管外漏出 リスク分類		5-FU:	炎症性 CI	DDP:炎症性			
催吐	上性リスク分類		レジメン全体:	高度(5-FU:	軽度 CDD	P:高度)		
インラ	ラインフィルター の要不要			不要				
	ツ女生女	************************************	旦十10 - 子不出	具可化 1	. 1)仕長ぶ)	刘州与帝の州与ベキフボ 1. 201		
						剤投与前の投与であるが、day 2以れている。また、特民病患者には林		
						れている。また、糖尿病患者には禁こ対する投与の安全性は確立され		
		でいないため、血糖上						
						はアプレピタント125 mg/day (day		
	備考欄	*		0 1	•	る、午前中)のいずれかを投与す		
			1时间~1时间30万	同日	day (day 2~3	5、十則中107(1940/19を放子9		
		る。 ※A5 ED DT療法から	(単結) アオロバシム	が行う担合	)수 <b>A5 ED</b> :	RT療法により部分奏効以上の効		
		米A3 FP+R1療法がられ 果判定が得られ、本レ						
			_					
		※CDDP総投与量200	~300 mg/m を超ス	る場合は音	傾性の神経	<b>海</b> 性社思。		

	A及追が703								
対象	疾患	食道がん	レジメン名	DTX単剤療法					
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	21日						
総コ、	総コース数制限なし								
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
2	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1			
2	デキサメタゾ	C	1 V	点间伊任	30))	day 1			
3	ドセタキセル	(DTX)	$70 \text{ mg/m}^2$	点滴静注	60分	day 1			
3	生食250 mL		1 P	小小的肝住	0071	day 1			
4	生食50 mL(	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	1管外漏出 リスク分類		DTX: 壊死性						
	:性リスク分類		DTX:軽度						
	インフィルター の要不要		不要						
	備考欄								

	A. 及 担 <i>が か</i>								
対象	疾患	食道がん	レジメン名	術前補助5-	·FU+CDDP	療法(FP療法)			
	-スの期間(休	:薬期間含む)	21日~28日						
総コ	ース数	2コース(2コース目は3	~4週間後に開始	•)					
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	オランザピン		1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)			
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5			
3	生食1000 ml		1 P	点滴静注	4時間	day 1			
	アプレピタン	1125 mg (day 1) √							
4		$80 \text{ mg} (\text{day } 2 \sim 3)$	1 Cap	経口		day 1 (125 mg), day 2~3 (80 mg)			
	※ホスネツピ	タント未使用の場合	•						
	生食100 mL		1 P			don 1 5			
	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V			day 1~5			
_	デキサメタゾ		2 A	点滴静注	20/\				
5	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V	尽倘靜往	30分	don 1			
	ホスネツピタ	ント235 mg	1 V			day 1			
	※アプレピタ	ント未使用の場合	1 V						
	フルオロウラ	シル(5-FU)	$800 \text{ mg/m}^2$	点滴静注	24時間	doy 1 5			
6	生食500 mL		1 P	以個群任	24时间	day 1~5			
7	シスプラチン	(CDDP)	80 mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	2時間	1 1			
7	生食500 mL		1 P			day 1			
8	20%マンニト	ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1			
9	フロセミド20r		1 A	静注		day 1			
10	生食1000 ml	L	1 P	点滴静注	6時間	doy 1 5			
10	生食500 mL		1 P	尽何肝任	044111	day 1~5			
	1.管外漏出		5-FU	炎症性 CI	)DP·炎症性	:			
	リスク分類		510.	火油LL CL		•			
催吐	上性リスク分類		レジメン全体:	高度(5-FU:	軽度 CDD	P:高度)			
インラ	ラインフィルター の要不要			不要					
	シタコダ	<b>※</b> オランボレッカ 1ロ	是十10 ma主不逆	島可能 4~	, 1/け坮がノ :	剤投与前の投与であるが、day 2以			
						削及子削の投子でのるが、day 2以 れている。また、糖尿病患者には禁			
						2対する投与の安全性は確立され			
		ごこのり、結が柄りへりていないため、血糖上							
	備考欄					こめる。 はアプレピタント125 mg/day(day			
					-				
			1時間~1時間30分	月リ)、80 mg/	day (day 2~	3、午前中)のいずれかを投与す			
		る。	2		A1.1.1	Later SS - In			
		※CDDP総投与量200	~300 mg/m <sup>-</sup> を超え	る場合は蓄	積性の神経	毒性注意。			

	追がん5							
	疾患	食道がん	レジメン名 放射線併用5-FU+CDDP療法(FP+RT療法)					
		薬期間含む)	28日					
総コ	ース数	2コース						
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	オランザピン		1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)		
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~4		
3	生食1000 ml		1 P	点滴静注	4時間	day 1		
	アプレピタン	1-125 mg (day 1)						
4		$80 \text{ mg} (\text{day } 2 \sim 3)$	1 Cap	経口		day 1 (125 mg), day 2~3 (80 mg)		
	※ホスネツビ	。 タント未使用の場合	_					
	生食100 mL		1 P			1 1 4		
	デキサメタゾ	√6.6 mg	1 V	1		day 1~4		
_	デキサメタゾ		2 A	上海生物	20.4			
5	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V	点滴静注	30分	1 1		
	ホスネツピタ	ント235 mg	1 77			day 1		
		'ント未使用の場合	1 V					
	フルオロウラ	シル(5-FU)	$700 \text{ mg/m}^2$	La Salandah Sis	[			
6	生食500 mL		1 P	点滴静注	24時間	day 1~4		
	シスプラチン			- 点滴静注	2時間			
7	生食500 mL		$\frac{70 \text{ mg/m}^2}{1 \text{ P}}$			day 1		
8		ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1		
9	フロセミド20r		1 A	静注	30)1	day 1		
	生食1000 ml		1 P			_		
10	生食500 mL		1 P	点滴静注	6時間	day 1~4		
Ш́	1管外漏出		•	水岸州 CT	DD 水点型			
J	リスク分類		5-FU:	炎症性 CI	JDP:炎症性	1		
催吐	上性リスク分類		レジメン全体:	高度(5-FU:	軽度 CDD	P:高度)		
	ラインフィルター			不要				
<u> </u>	の要不要							
						剤投与前の投与であるが、day 2以		
						れている。また、糖尿病患者には禁		
						こ対する投与の安全性は確立され		
		ていないため、血糖上						
						はアプレピタント125 mg/day(day		
	備考欄		与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与す					
		る。	. 22 155	- III A++	الماملية	the late to the		
		※CDDP総投与量200	-					
						二線量60 Gy/30 fr/6 wで施行。		
				果判定が得ら	られ、完全奏	対が望める場合は、A2 FP療法を2		
		コースさらに追加できる	5.					

## A食道がん5(輸液変更)

削除 放射線併用5-FU+CDDP療法(FP+RT療法)(輸液変更)

削除 DTX+5-FU+CDDP療法(DCF療法)

**A食道がん7** 削除 Weekly PTX療法(3投1休法)

	担かんる					
	疾患	食道がん	レジメン名	5-FU+CDG	P療法	
13-	-スの期間(休	(薬期間含む)	28日			
総コ、	ース数	制限なし				
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5
	生食100 mL		1 P			day 1~5
2	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	- 点滴静注	30分	day 1~3
2	デキサメタゾ		2 A	尽闹肝任	3071	doy 1
	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V			day 1
3	フルオロウラ	シル(5-FU)	$800 \text{ mg/m}^2$	点滴静注	24時間	day 1~5
5	生食500 mL		1 P	. VV JIDI BT 177		day 1~3
4	ネダプラチン	(CDGP)	90 mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	2時間	day 1
4	生食500 mL		1 P	小小的护在	乙四十月	day 1
6	生食1000 ml	L	1 P	点滴静注	4時間	day 1
7	生食50 mL(	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 2~5
	1管外漏出 リスク分類		5-FU:	炎症性 CI	OGP:炎症性	:
催吐	催吐性リスク分類 レジメン全体:中等度(5-FU:軽度 CDGP:中等度)					
	インラインフィルター の要不要 不要					
	備考欄					

111	A及但A-107								
	疾患	食道がん	レジメン名	Weekly PT	X単剤療法(	6投1休法)			
1コー	-スの期間(休	(薬期間含む)	49日						
総コ	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1, 8, 15, 22, 29, 36			
2	ジフェンヒドラ	ラミン10 mg	5 T	経口		day 1, 8, 15, 22, 29, 36			
3	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1, 8, 15, 22, 29, 36			
5	デキサメタゾ		1 V	点個評任	30);	day 1, 8, 13, 22, 29, 30			
4	ファモチジン	20 mg	1 A	静注		day 1, 8, 15, 22, 29, 36			
5	パクリタキセ	ル(PTX)	$100 \text{ mg/m}^2$	点滴静注	60分	day 1, 8, 15, 22, 29, 36			
	生食250 mL		1 P	一次间针工	0073	day 1, 8, 13, 22, 29, 30			
6	生食250 mL	(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	30分	day 1, 8, 15, 22, 29, 36			
	1管外漏出		PTX: 壞死性						
j	リスク分類			111.38)	u				
催吐	催吐性リスク分類 PTX:軽度								
インラインフィルター の要不要 PTX投与のため、0.22 μm以下のインラインフィルターを使用					イルターを使用				
備考欄 ※ジフェンヒドラミンは、PTX投与30分前に内服する。 ※食道がんにおけるweekly PTX単剤療法は1コース49日の6投1休である。				休である。					

# A食道がん10 削除 CDGP+PTX療法

AL	A 及 追 が // / / / / / / / / / / / / / / / /								
対象	疾患	食道がん	レジメン名	Nivo単剤療	医法(2週間隔	<b>斎法</b> )			
13-	-スの期間(休	菜期間含む)	14日						
総コ	総コース数制限なし								
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
2	ニボルマブ(		240 mg/body	点滴静注	30分	day 1			
	生食100 mL		1 P	从何盱住	30))	day 1			
3	生食50 mL(	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	□管外漏出 リスク分類		Nivo:非炎症性						
催吐	上性リスク分類	Nivo:最小度							
インラ	インラインフィルター の要不要 Nivo投与の			又は0.22 μn	nインラインフ	/ィルターを使用			
備考欄									

対象疾患   食道がん   レジメン名   Nivo単剤療法(4週間隔法)								
		薬期間含む)	28日					
		制限なし						
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
2	ニボルマブ(	,	480 mg/body	点滴静注	30分	day 1		
	生食100 mL		1 P	小闹伊任	30))	uay 1		
3	生食50 mL(	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
	■管外漏出 リスク分類		Nivo: 非炎症性					
催吐	上性リスク分類		Nivo:最小度					
インフ	ラインフィルター の要不要	N	ivo投与のため、0.2	又は0.22 μn	nインラインフィル	ターを使用		
	備考欄							

A食道がん13削除5-FU+CDDP療法(FP療法)(輸液変更)

	A食迫がん14								
対象		食道がん	レジメン名	Pembro+5-l	FU+CDDP獨	景法(Pembro+FP療法)			
		薬期間含む)	21日						
総コ	ース数	6コース							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	オランザピン		1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)			
		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5			
3	生食1000 mI		1 P	点滴静注	4時間	day 1			
	アプレピタン	125 mg (day 1) 、							
4		80 mg (day 2~3)	1 Cap	経口		day 1 (125 mg), day 2~3 (80 mg)			
	※ホスネツピ	タント未使用の場合							
	生食100 mL		1 P			don 1 5			
	デキサメタゾ	∠6.6 mg	1 V			day 1~5			
_	デキサメタゾ		2 A	上海软沙	201				
5	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V	点滴静注	30分	don 1			
	ホスネツピタ	ント235 mg	1 37			day 1			
	※アプレピタ	ント未使用の場合	1 V						
6	生食50 mL()	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
7	ペムブロリズ・	マブ (Pembro)	200 mg/body			·			
7	生食100 mL	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1 P	点滴静注	30分	day 1			
8	生食50 mL()	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	フルオロウラ	シル(5-FU)	800 mg/m <sup>2</sup>						
9	生食500 mL			点滴静注	24時間	day 1~5			
	シスプラチン	(CDDP)	1 P 80 mg/m <sup>2</sup>			day 1			
10	生食500 mL	(CDD1)	1 P	点滴静注	2時間				
11	<u> </u>	ール 300 mI	0.66 P	点滴静注	30分	day 1			
12	フロセミド20n	ng	1 A	静注	30)	day 1			
	生食1000 mI		1 P		- 17.4. 17.11	•			
13	生食500 mL		1 P	点滴静注	6時間	day 1~5			
Ú	1.管外漏出			MA FIRE M	Cette CDE	ND. 水壳肿			
	リスク分類		Pembro:非炎症	生 5-FU: 莎	き延性 CDL	P: 炎症性			
催叶	性リスク分類	レジ	メン全体:高度(Pe	mbro:最小區	麦 5-FU:軽	更 CDDP:高度)			
	ラインフィルター								
	の要不要	Pe	embro投与のため、	$0.2\sim$ 5 $\mu$ m	インラインフィ	ィルターを使用			
		※オランボレッノけ 1口	是十10 ma社不逆	島可能 4~~	,1/1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1	剤投与前の投与であるが、day 2以			
		次 オフ クリ し ノ は、1 日 欧 け ロ 由 の 肥 与 靫 浦 )	取入IUIIIgまで指 日的のため 昵哉	里り貼。Uay ではなえたる	/ 1(よりしかん) - 公北	れている。また、糖尿病患者には禁			
						こ対する投与の安全性は確立され			
1	/	ていないため、血糖上 ※通常のED療法と思え							
	nui J. i i izij					と与量はそのままである。			
						はアプレピタント125 mg/day (day			
			1時間~1時間30分	丽)、80 mg/	day (day 2~3	3、午前中)のいずれかを投与す			
		る。	•						
		※CDDP総投与量200	~300 mg/m <sup>2</sup> を超え	る場合は蓄	積性の神経	毒性注意。			
	派CDDT 帰族 7 至200 300 mg m と に 200 の T to 田 模 は 3 日 に 政 は 1 に 本 は に 上 心 。								

	A及追加-7013								
	疾患	食道がん	レジメン名	Pembro+5-I	FUメンテナン	/ス療法			
1コー	-スの期間(休	(薬期間含む)	21日	•					
総コ	ース数	29コース							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5			
2	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1~5			
2	デキサメタゾ	√6.6 mg	1 V	点個財任	3077	uay 1~3			
3		フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
4	ペムブロリズ	マブ (Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1			
4	生食100 mL		1 P	<b>杰桐</b> 伊工		day i			
5	生食50 mL(	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
6	フルオロウラ	シル(5-FU)	$800 \text{ mg/m}^2$	点滴静注	24時間	day 1~5			
0	生食500 mL		1 P			day 1~3			
7	生食50 mL(	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1~5			
	1管外漏出 リスク分類		Pembro	:非炎症性	5-FU: 炎症\	生			
催吐	催吐性リスク分類 レジメン全体:軽度(Pembro:最小度 5-FU:軽度)								
	インラインフィルター の要不要 Pembro投与のため、0.2~5 μmインラインフィルターを使用					パルターを使用			
	備考欄 ※当レジメンは、A14 Pembro+FP療法のCDDPを除いたメンテナンス療法である。					ンス療法である。			